

平成28年9月30日

観光戦略課

電話 0742-34-4739

平成27年 奈良市観光入込客数について

1 観光客数の概要

平成27年中に奈良市を訪れた観光客は、14,976千人で前年の14,143千人に比べ、833千人(5.89%)の増となり、対前年比で言えば、直近5年間の中で最も大きな増加となります。

一般観光客数は、宿泊客で63千人(4.73%)の減となっていますが、これは外国人観光客の宿泊客数急増による影響を受けたことが要因と考えられ、日帰客は595千人(5.28%)増加し、一般観光客全体としては532千人(4.22%)の増加となりました。

修学旅行生数は宿泊客、日帰客ともに減少したことにより、全体としては44千人(4.89%)の減となりました。

外国人観光客は、宿泊客で116千人(104.51%)増と倍増し、日帰客も増加したことで、全体として345千人(54.76%)増と大幅に増加しました。

種 別		H27年観光 入込客数(千人)	平成26年観光 入込客数(千人)	増減 (千人)	増減率 (%)
一 般	宿 泊	1,270	1,333	▲63	▲4.73
	日 帰	11,876	11,281	595	5.28
	計	13,146	12,614	532	4.22
修学旅行	宿 泊	114	117	▲3	▲2.56
	日 帰	741	782	▲41	▲5.24
	計	855	899	▲44	▲4.89
外 国 人	宿 泊	227	111	116	104.51
	日 帰	748	519	229	44.12
	計	975	630	345	54.76
合 計	宿 泊	1,611	1,561	50	3.20
	日 帰	13,365	12,582	783	6.23
	計	14,976	14,143	833	5.89

2 主な増減要因

(1) 平成27年の概況

内閣府「日本経済 2015-2016」によると、平成27年はアベノミクスの下、長引くデフレからの脱却と日本経済の再生に向けて大きく前進し、景気は緩やかな回復基調が続いているものの企業と家計の所得から設備投資や個人消費等の支出への波及には遅れが見られ、更に中国経済を始めとするアジア新興国経済の減速の影響も加わり、生産面での弱さが現れている状況です。特に、個人消費については、物価上昇に比して賃金の改善が緩慢であること、若年層（主に子育て世帯）などで節約志向が高まっていることなどから、総じて底堅い動きとなっていることが指摘されています。このような消費傾向は、観光客の消費動向に対しても影響を与えたと考えられます。

一方、訪日外国人旅行者とインバウンド消費の動向については、平成27年に前年比47.1%増の1,974万人と過去最高を更新し、インバウンド消費も前年比71.5%増の3兆4,771億円となっています。

平成27年は、平成26年の「富岡製糸場と絹産業遺産群」（群馬県）に引き継ぎ日本の近代産業遺産が世界的に高く評価され、「明治日本の産業革命遺産 製鉄・製鋼、造船、石炭産業」（長崎県他7県）として、同年7月にユネスコの世界文化遺産に登録されたことと、6月には平成28年の主要国首脳会議（サミット）が5月に伊勢志摩で開催されることが発表され、国際的に日本への注目度が高まった年でもあります。

奈良市においては、2月に世界遺産を含む社寺などをお茶席会場として、三千家などの各茶道流派が一堂に会する「珠光茶会」の第二回が開催され、約7千人の来場者を迎えて盛大に開催されました。

世界遺産・春日大社では、平成27・28年に「第六十次 式年造替」という20年に一度執り行われる社殿の修築大事業があり、平成27年3月に神様が一時的に移殿へ遷られる「仮殿遷座祭」が執行されました。本殿修復の後、平成28年11月に神様が元の本殿へ還られる「本殿遷座祭」が行われる予定であり、その前後の期間、式年造替に関わる様々な儀式やイベントが行われます。

新しい観光スポットとして奈良市は3月に写真家・入江泰吉居宅を改修した「入江泰吉旧居」、4月に大正時代の町家を改修した「奈良町にぎわいの家」、さらに11月に奈良町の南玄関口・観光拠点として「奈良町南観光案内所『鹿の舟』」などを開設しました。

平成26年10月に、日中韓3か国において実施されている文化庁の国家プロジェクト『東アジア文化都市』事業の平成28年第3回国内候補都市に奈良市が選定され、日本国内における奈良市への注目が集まりました（平成27年12月、中国・青島市で開かれた日中韓文化大臣会合において、奈良市の「東アジア文化都市」正式決定）。

(2) 奈良市への観光客数

平成26年に比した平成27年の観光客数増加の特徴を見ると、モーター（観光駐車場等）が対前年比825,100人（17.95%）の増となっています。

モーターの詳細を見ると、県営駐車場において、普通車・バスともに増加しており、特に大仏前駐車場のバス利用が11,366台（23.33%）と大きく増加しています。これは東大寺周辺を訪れる外国人観光客のツアーバス等の増が要因と推測されます。

(単位:人)

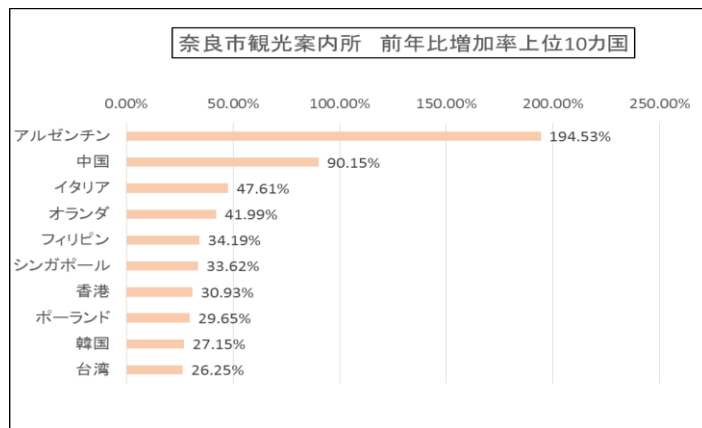
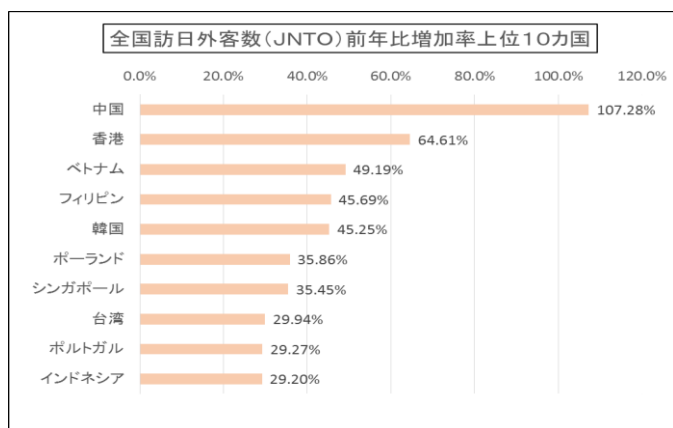
	前年との対比											
	軌道(A)				モーター(B)				合計(C)			
	平成26年	平成27年	増減数	増減率	平成26年	平成27年	増減数	増減率	平成26年	平成27年	増減数	増減率
1月	774,300	715,900	-58,400	-7.54%	249,400	275,400	26,000	10.43%	1,023,700	991,300	-32,400	-3.16%
2月	674,700	646,900	-27,800	-4.12%	210,100	270,100	60,000	28.56%	884,800	917,000	32,200	3.64%
3月	848,000	818,300	-29,700	-3.50%	457,100	515,800	58,700	12.84%	1,305,100	1,334,100	29,000	2.22%
4月	789,700	794,100	4,400	0.56%	485,400	551,600	66,200	13.64%	1,275,100	1,345,700	70,600	5.54%
5月	856,500	866,700	10,200	1.19%	699,500	730,000	30,500	4.36%	1,556,000	1,596,700	40,700	2.62%
6月	745,000	746,900	1,900	0.26%	449,800	515,900	66,100	14.70%	1,194,800	1,262,800	68,000	5.69%
7月	688,700	706,700	18,000	2.61%	224,700	303,300	78,600	34.98%	913,400	1,010,000	96,600	10.58%
8月	840,000	872,200	32,200	3.83%	245,500	331,800	86,300	35.15%	1,085,500	1,204,000	118,500	10.92%
9月	751,200	786,700	35,500	4.73%	367,800	414,600	46,800	12.72%	1,119,000	1,201,300	82,300	7.35%
10月	809,700	833,300	23,600	2.91%	477,000	635,800	158,800	33.29%	1,286,700	1,469,100	182,400	14.18%
11月	982,800	986,700	3,900	0.40%	464,900	539,600	74,700	16.07%	1,447,700	1,526,300	78,600	5.43%
12月	787,500	781,200	-6,300	-0.80%	264,500	336,900	72,400	27.37%	1,052,000	1,118,100	66,100	6.28%
計	9,548,100	9,555,600	7,500	0.08%	4,595,700	5,420,800	825,100	17.95%	14,143,800	14,976,400	832,600	5.89%

H26・27観光駐車場利用状況 ※各県営駐車場の普通車・バスの数値を抽出して比較

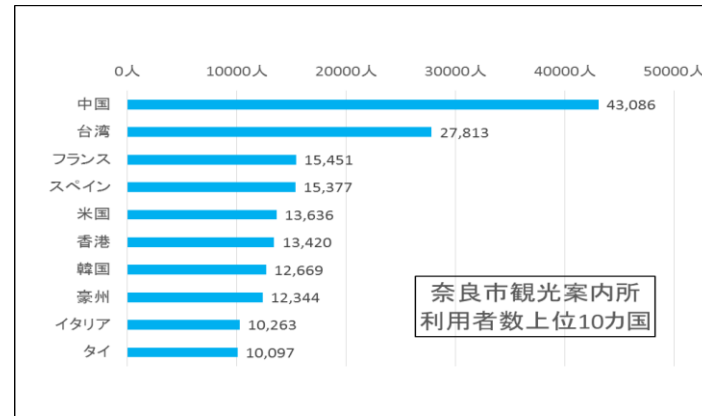
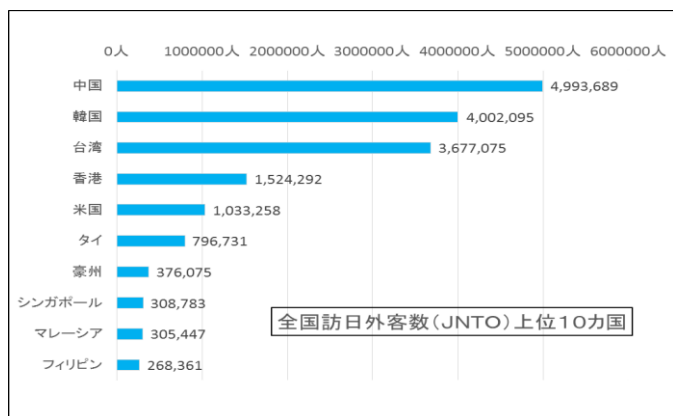
	普通車			バス	
	大仏前	高畑	登大路	大仏前	高畑
	台	台	台	台	台
H27	27,550	32,329	98,253	60,094	547
H26	31,795	29,354	91,521	48,728	449
増減数	-4,245	2,975	6,732	11,366	98
増減率	-13.35%	10.13%	7.36%	23.33%	21.83%

(3) 外国人観光客数

外国人観光客については、J N T O（日本政府観光局）の発表によると、全国的に平成26年の1,341万人から平成27年は1,974万人と47.1%増加し、3年連続で過去最高を記録するとともに、統計を取り始めた昭和39年以降で最大の対前年比増加率を記録しました。主な要因としては、円安進行による訪日旅行への割安感の拡大や燃油サーチャージの値下がりによる航空運賃の低下等の経済環境の変化が挙げられます。また、平成32年東京オリンピック・パラリンピック競技大会の開催決定や世界文化遺産・無形文化遺産登録数の増加による日本への国際的注目度の高まり、首都圏空港の発着枠拡大、ビザの緩和や外国人旅行者向け消費税免税制度の拡大等の施策展開による訪日外国人旅行者増加なども考えられます。



(観光案内所利用者数1,000人以上の国・地域のみ集計)



J N T Oが発表する全国の訪日外客数について、国籍別に詳細を見ると、東アジア・東南アジア諸国からの旅行者の増加が前年に引き続き目立っており、前年比増加率の上位10か国に中国（1位）・香港（2位）・ベトナム（3位）・フィリピン（4位）・韓国（5位）・シンガポール（7位）・台湾（8位）・インドネシア（10位）の8か国がランクインしています。

奈良市の観光案内所の国籍別外国人観光客案内内訳について、利用者数1,000人以上の国・地域から前年比増加率の上位10か国を集計すると、東アジア・東南アジア諸国からは、中国（2位）・フィリピン（5位）・シンガポール（6位）・

香港（7位）・韓国（9位）・台湾（10位）の6か国がランクインしており、全国的な流れを受けて、奈良市でも東アジア・東南アジア諸国からの旅行者の増加が見られ、特に中国に関しては、倍近くの伸びとなっています。

また、アルゼンチン（1位／194.53%増）・イタリア（3位／47.61%増）・オランダ（4位／41.99%増）などの増加率も高くなっています。

奈良市観光案内所における増加率の上位（平成27年に利用者1,000人超の国のみ）3か国の変動要因として考えられるものは、次のとおりです。

アルゼンチン：奈良市1位

（単位：人）

アルゼンチン	H23	H24	H25	H26	H27
アルゼンチン→日本	3,768	5,239	6,357	7,211	19,399
増減（前年比）	-23.0%	39.0%	21.3%	13.4%	169.0%
アルゼンチン→奈良市	-	-	441	530	1,561
増減（前年比）	-	-	-	20.2%	194.5%

※奈良市への人数は、観光案内所利用者数を示す（平成24年以前は集計なし）

- 平成27年12月の「FIFAクラブワールドカップ2015」開催によるサポーター来日（地元人気クラブであるリーベル・プレートが参加）
【H26年／530人（うち12月／25人）⇒H27年／1,561人（うち12月／868人）】
- 初めて関西地区の大阪長居スタジアムが会場の一つになったため、奈良市を含む近隣地域への観光行動が促されたと推測

中国：全国1位／奈良市2位

※H23～H24の奈良市への人数は中国・香港が合算になっているため除外

（単位：人）

中国	H23	H24	H25	H26	H27
中国→日本	1,043,246	1,425,100	1,314,437	2,409,158	4,993,689
増減（前年比）	-26.2%	36.6%	-7.8%	83.3%	107.3%
中国→奈良市	-	-	10,397	22,659	43,086
増減（前年比）	-	-	-	117.9%	90.1%

※奈良市への人数は、観光案内所利用者数を示す

- 比較的安定していた日中関係や外国人旅行者向け消費税免税制度の拡充、円安進行、中国経済の成長等による経済的要因
- 訪日クルーズ船の増加（平成26年／9隻⇒平成27年／30隻）
（コスタ・セレーナ（乗客定員3,780人）、クァンタム・オブ・ザ・シーズ（乗客定員4,180人）等の大型客船）
- 関空への就航便の主な変動
 - 新規就航：
 - I. 中国東方航空（寧波／週2便／H27年3月～）
 - II. 春秋航空（鄭州・成都／各週4便／H27年3月～）
 - III. 春秋航空（泉州・西安／各週3便／H27年3月～）
 - IV. 中国国際航空（成都／週3便／H27年10月～）

□ 増便：

- I. 中国南方航空（広州／週 7⇒14 便／H27 年 3 月～）
- II. 上海吉祥航空（上海／週 7⇒14 便／H27 年 3 月～）
- III. 北京首都航空（杭州／週 2⇒4 便／H27 年 10 月～）

イタリア：全国 13 位／奈良市 3 位

（単位：人）

イタリア	H23	H24	H25	H26	H27
イタリア→日本	34,035	51,801	67,228	80,531	103,198
増減（前年比）	-45.5%	52.2%	29.8%	19.8%	28.1%
イタリア→奈良市	1,484	3,603	5,573	6,953	10,263
増減（前年比）	-72.9%	142.8%	54.7%	24.8%	47.6%

※奈良市への人数は、観光案内所利用者数を示す

- 「ミラノ国際博覧会」（平成 27 年 5～10 月開催）の日本館において、日本文化を体験できるイベント等が実施されるとともに、日本館が展示デザイン部門で金賞を受賞し、現地での日本のメディア露出が増加
- 「第 23 回世界スカウトジャンボリー」が平成 27 年 7 月に山口県で開催され、イタリアからも約 1,000 人が参加
- 平成 27 年 5 月から、JNTO によるイタリア語 Facebook が開始

全国 2 位の増加率である香港（全国 2 位／64.6%増、奈良市 7 位／30.93%増）については、訪日全体では約 152 万人となり、初めて年計で 100 万人を超えました（人口約 720 万人に対し約 5 人に 1 人が訪日）。航空路線の拡充や円安傾向の持続により訪日旅行の割安感が浸透していることが考えられます。そこで、この動きを加速させるため、平成 28 年度からは、香港へのプロモーションを予定しています。

また、観光案内所利用者数上位 10 か国では、中国（43,086 人）・台湾（27,813 人）・米国（13,636 人）などの訪日全体の外客数が特に多い五大市場（※）の他に、フランス（15,451 人）・スペイン（15,377 人）・イタリア（10,263 人）といった欧州系の国が前年に引き続き、ランクインしています。

これらの市場は、平均泊数や 1 泊当たり旅行中支出が比較的大きく（図表【訪日外国人 1 人当たり旅行総支出（国籍・地域別）】参照）、また、奈良市が有する特徴的なコンテンツ（歴史・伝統文化体験、美術館・博物館、日本酒等）への期待度も高いことが分かります（図表【国籍・地域（21 区分）別 訪日旅行に関する意識（満足度など）】参照）。

特に、観光庁「訪日外国人消費動向調査」の国籍・地域別の都道府県別訪問率を見ると、これらの国の奈良県への訪問率は、全体よりも平均的に高い順位となっています（図表【国籍・地域（21 区分）別 都道府県別訪問率】参照）。

※ 五大市場：訪日外客数の特に多い中国・韓国・台湾・香港・米国

【訪日外国人1人当たり旅行総支出（国籍・地域別）】

国籍・地域	(円/人)	(円/人)	(円/人)	(円/人)	(泊)	(円/人泊)	(円/人泊)	(円/人泊)	(円/人泊)
	a.旅行中支出	団体ツアー参加者	個人旅行パッケージ利用者	個別手配者	b.平均泊数	c.1泊当たり旅行中支出(=a/b)	団体ツアー参加者	個人旅行パッケージ利用者	個別手配者
全国籍・地域	143,832	108,911	120,722	163,844	10.2	14,039	21,016	20,999	12,394
韓国	63,469	33,618	40,372	73,423	5.2	12,318	11,795	12,768	12,419
台湾	101,740	61,947	88,719	143,963	6.4	15,906	14,954	17,837	15,981
香港	141,135	80,105	105,845	174,635	5.9	23,842	18,668	20,127	26,264
中国	229,317	172,039	202,632	300,020	12.7	18,010	31,523	31,625	13,500
タイ	124,507	89,785	75,574	143,483	11.1	11,204	20,833	13,129	10,196
シンガポール	167,539	88,132	136,884	177,288	9.0	18,642	14,903	19,942	18,755
マレーシア	121,603	78,438	100,535	133,968	12.3	9,855	9,655	9,125	9,932
インドネシア	109,283	69,550	73,686	123,107	17.2	6,361	6,372	10,055	6,175
フィリピン	114,072	128,449	79,977	115,136	27.9	4,084	14,623	13,317	3,709
ベトナム	155,707	104,339	153,965	174,821	37.7	4,130	3,743	10,795	4,093
インド	143,330	71,476	99,017	147,122	27.0	5,299	6,888	2,766	5,363
英国	181,596	46,334	103,625	192,776	12.8	14,201	3,833	8,715	14,960
ドイツ	145,379	53,167	214,053	150,326	12.1	12,021	4,591	21,330	12,325
フランス	184,013	61,868	207,941	188,628	14.8	12,409	5,591	16,738	12,448
イタリア	164,241	89,046	128,879	174,978	13.8	11,902	8,414	11,442	12,205
スペイン	193,766	97,059	65,380	208,775	15.4	12,558	11,692	6,009	12,849
ロシア	156,783	51,653	137,440	167,614	21.3	7,373	3,789	6,921	7,573
米国	158,839	92,708	95,770	164,336	14.7	10,781	8,023	8,754	10,942
カナダ	151,825	63,653	123,755	159,522	12.4	12,226	6,889	12,107	12,524
オーストラリア	201,654	104,456	177,268	212,265	12.6	16,032	8,797	15,092	16,726
その他	163,715	118,551	93,461	169,142	16.6	9,861	8,946	8,419	9,920

(出典) 観光庁 「訪日外国人消費動向調査（平成27年）」

【国籍・地域（21区分）別 訪日旅行に関する意識（満足度など）】

平成27年(2015年) 暦年(1-12月期)

(単位) 回答数: 人、選択率: %

調査項目	全体		フランス		イタリア		スペイン	
	回答数	選択率	回答数	選択率	回答数	選択率	回答数	選択率
訪日前に	21,094	69.7	320	80.3	463	80.6	221	79.8
期待して	7,040	20.6	136	34.0	223	39.9	83	31.8
いたこと	5,377	20.5	105	26.7	180	33.9	98	37.9
(複数回答)	8,852	29.8	124	32.3	149	26.3	90	36.7
温泉入浴	11,942	44.0	174	45.0	273	48.2	143	53.5
自然・景勝地観光	10,645	39.0	160	41.2	205	36.2	97	36.8
繁華街の街歩き	15,271	55.3	167	42.6	242	42.9	91	35.0
ショッピング	3,540	12.5	119	30.8	170	30.4	67	26.9
美術館・博物館	4,351	16.4	39	10.1	64	11.7	20	8.7
テーマパーク	1,100	4.2	14	3.0	21	3.0	8	3.2
スキー・スノーボード	638	2.0	9	2.4	24	3.9	3	1.3
その他スポーツ(ゴルフ等)	1,350	4.3	39	9.6	74	12.8	43	16.2
舞台鑑賞(歌舞伎・演劇・音楽等)	902	2.9	44	11.3	52	9.1	29	10.5
スポーツ観戦(相撲・サッカー等)	1,455	5.5	42	11.2	73	13.4	30	12.2
自然体験ツアー・農漁村体験	2,550	10.0	57	14.3	113	19.5	45	18.0
四季の体感(花見・紅葉・雪等)	1,304	4.4	39	10.6	32	5.8	23	6.8
映画・アニメ縁の地を訪問	4,921	16.7	148	38.7	218	38.0	121	44.7
日本の歴史・伝統文化体験	4,373	15.4	149	38.6	188	33.6	103	37.3
日本の日常生活体験	2,639	9.2	82	21.7	83	14.3	49	18.7
日本のポップカルチャーを楽しむ	273	1.1	4	0.9	5	0.9	0	0.0
治療・健診	2,261	6.7	32	6.6	47	8.0	9	3.3
上記には当てはまるものがない	111,878	390.2	2,003	511.8	2,899	512.5	1,373	519.1
回答者数								

(出典) 観光庁 「訪日外国人消費動向調査（平成27年）」

【国籍・地域（21区分）別 都道府県別訪問率】

順位	全体	フランス	イタリア	スペイン
1	東京都 52.1	東京都 86.4	東京都 83.9	東京都 90.9
2	千葉県 44.4	千葉県 63.3	千葉県 74.8	千葉県 75.7
3	大阪府 36.3	京都府 47.0	京都府 50.7	京都府 62.4
4	京都府 24.4	大阪府 35.9	大阪府 40.3	大阪府 46.0
5	神奈川県 11.3	神奈川県 20.5	広島県 18.2	神奈川県 24.2
6	愛知県 9.8	広島県 14.3	神奈川県 14.2	広島県 22.7
7	福岡県 9.5	奈良県 9.7	奈良県 13.7	岐阜県 15.9
8	北海道 8.1	岐阜県 7.9	石川県 10.4	奈良県 12.6
9	兵庫県 6.5	兵庫県 6.4	岐阜県 9.6	石川県 8.7
10	山梨県 6.3	栃木県 5.8	兵庫県 8.8	兵庫県 7.8
11	沖縄県 6.1	山梨県 5.4	栃木県 5.2	栃木県 6.7
12	静岡県 5.4	石川県 5.0	愛知県 4.2	愛知県 6.3
13	奈良県 5.2	長野県 4.8	静岡県 4.2	和歌山県 4.2
14	大分県 4.2	愛知県 4.7	和歌山県 3.8	静岡県 3.7
15	長野県 3.2	和歌山県 4.3	長野県 3.0	長野県 3.4
16	広島県 3.0	静岡県 4.2	北海道 2.3	沖縄県 3.2
17	熊本県 3.0	沖縄県 3.4	岡山県 2.1	山梨県 2.8
18	長崎県 2.6	福岡県 3.4	山梨県 2.1	岡山県 2.4
19	岐阜県 2.5	北海道 3.1	沖縄県 2.0	鹿児島県 2.1
20	石川県 1.9	鹿児島県 2.8	愛媛県 1.8	福岡県 1.8
21	栃木県 1.5	岡山県 1.8	香川県 1.5	熊本県 1.6
22	富山県 1.4	熊本県 1.8	福岡県 1.5	長崎県 1.4
23	埼玉県 1.4	埼玉県 1.5	長崎県 1.4	埼玉県 1.3
24	和歌山県 1.2	宮城県 1.4	青森県 1.3	香川県 1.3
25	山口県 0.9	群馬県 1.0	大分県 1.2	大分県 1.2
26	茨城県 0.9	香川県 0.9	鹿児島県 1.2	新潟県 1.2
27	鹿児島県 0.9	茨城県 0.9	茨城県 1.1	三重県 1.2
28	宮城県 0.8	福島県 0.9	埼玉県 1.0	宮城県 0.9
29	岡山県 0.8	滋賀県 0.8	宮城県 0.9	岩手県 0.7
30	新潟県 0.7	三重県 0.7	富山県 0.7	茨城県 0.7
31	香川県 0.7	青森県 0.6	熊本県 0.6	富山県 0.6
32	滋賀県 0.7	徳島県 0.6	秋田県 0.6	福井県 0.5
33	佐賀県 0.6	富山県 0.5	三重県 0.5	鳥取県 0.4
34	群馬県 0.5	山形県 0.5	新潟県 0.4	北海道 0.4
35	三重県 0.5	長崎県 0.5	岩手県 0.5	山形県 0.2
36	青森県 0.4	大分県 0.5	滋賀県 0.5	愛媛県 0.2
37	福島県 0.4	宮城県 0.5	福島県 0.3	青森県 0.0
38	愛媛県 0.3	島根県 0.5	群馬県 0.2	秋田県 0.0
39	宮崎県 0.3	佐賀県 0.4	高知県 0.2	福島県 0.0
40	徳島県 0.3	愛媛県 0.4	佐賀県 0.1	群馬県 0.0
41	山形県 0.2	高知県 0.3	宮崎県 0.1	滋賀県 0.0
42	秋田県 0.2	鳥取県 0.2	山形県 0.1	島根県 0.0
43	岩手県 0.2	秋田県 0.2	山口県 0.1	山口県 0.0
44	高知県 0.2	新潟県 0.2	福井県 0.0	徳島県 0.0
45	鳥取県 0.2	山口県 0.1	鳥取県 0.0	高知県 0.0
46	島根県 0.1	岩手県 0.0	島根県 0.0	佐賀県 0.0
47	福井県 0.1	福井県 0.0	徳島県 0.0	宮崎県 0.0

(出典) 観光庁 「訪日外国人消費動向調査(平成27年)」から奈良市作成

(4) 修学旅行生数

修学旅行生については、宿泊と日帰りを併せた総数では対前年比4.89%の減少となっています。

なお、全国対象生徒数に占める奈良市の修学旅行生数の割合については、対前年比1.18%の微減となっています。

修学旅行生数の推移

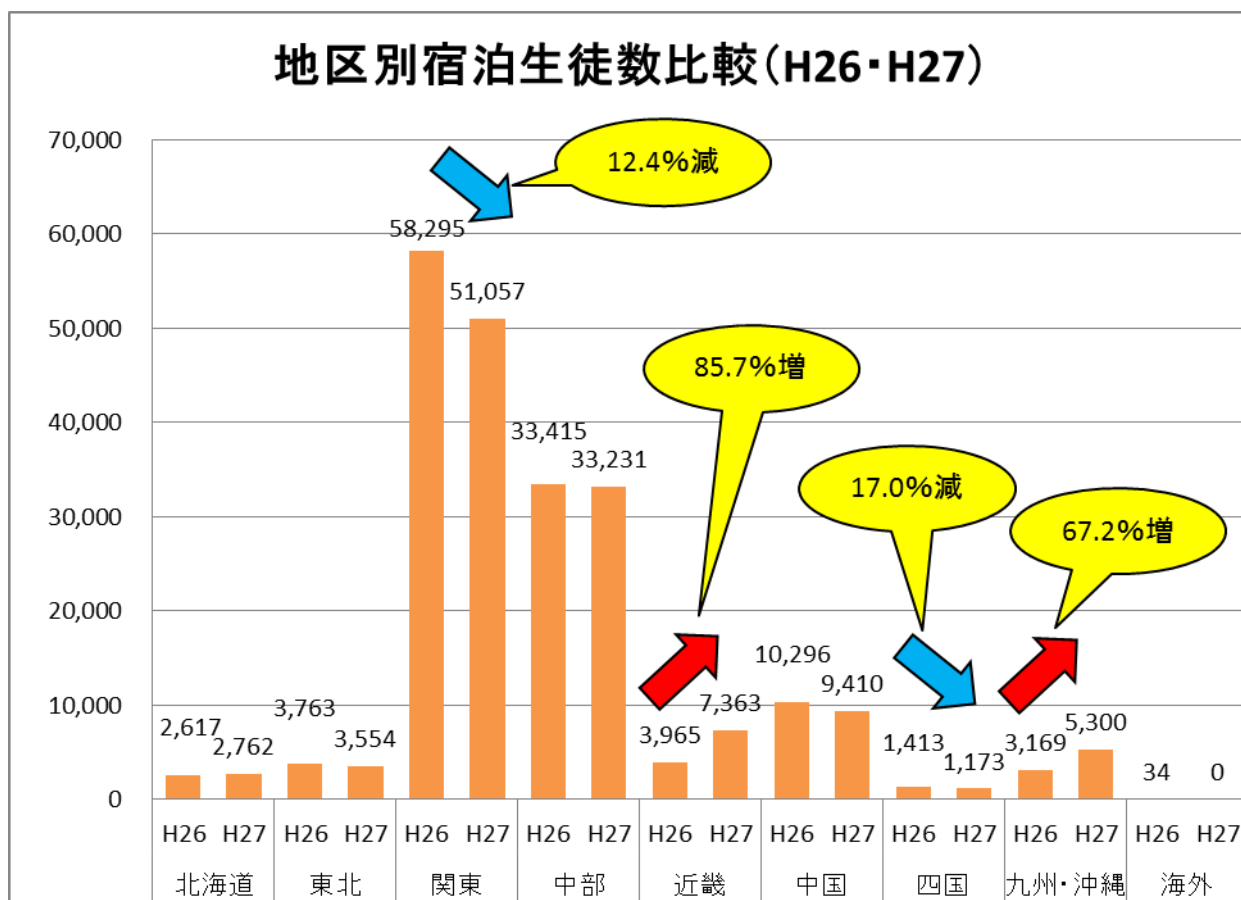
(単位:人)	H21	H22	H23	H24	H25	H26	H27	H26→27 伸び率
奈良市の修学旅行生数	782,000	1,026,000	816,000	825,000	876,000	899,000	855,000	-4.89%
全国対象生徒数	3,525,594	3,474,719	3,510,533	3,448,213	3,465,575	3,411,760	3,396,523	-0.45%
全体に占める奈良市の割合	22.18%	29.53%	23.24%	23.93%	25.28%	26.35%	25.17%	-1.18%

※奈良市の修学旅行生数は暦年値、全国対象生徒数は年度値

※全国対象生徒数の出典は文部科学省「学校基本調査」

地方ブロック別で、平成26年と平成27年の宿泊生徒数を比較すると、関東・四国地方の減少、近畿・九州・沖縄地方の増加が目立ちます。

また、関東・中部ブロックは、他の地方ブロックと比較し、相対的に宿泊生徒数が多くなっており、その中でも東京都・愛知県が安定的に1位・2位となっています。



(単位：人)

次に、大きく増減のあった地方ブロックの宿泊生徒数を都道府県別で見ると、右の表のようになっています。

全体の減少要因としては、15歳未満人口が昭和57年から34年連続で減少しており、また、文部科学省の「学校基本調査」から修学旅行全国対象生徒数も近年減少傾向であったことが分かるため、その影響が現れていると考えられます。

地方ブロック	都道府県	H26	H27	増減率 H26→H27
関東	茨城	2,330	1,379	-40.82%
	東京	34,129	31,034	-9.07%
	千葉	3,526	2,357	-33.15%
	神奈川	7,383	5,174	-29.92%
近畿	滋賀	1,043	1,874	79.67%
	京都	878	1,701	93.74%
	大阪	1,205	1,905	58.09%
	兵庫	796	1,805	126.76%
四国	徳島	1,094	934	-14.63%
	高知	289	239	-17.30%
九州・沖縄	福岡	2,252	3,937	74.82%
	熊本	169	597	253.25%
	大分	0	209	皆増
	鹿児島	456	132	-71.05%

また、その他にも、平成27年は、戦後70周年を迎えて記念事業が各地で行われ、平和教育がより推進されたことや、春に新幹線の連合体割引（特急券が半額）が従来の大阪から広島まで伸びたことなどにより、修学旅行生が広島方面へ流れてしまったとも考えられます。このことは、平成27年の修学旅行生が、対前年比で、広島市で約3万人、長崎市で約1万2千人増加したことからも推測されます。

東京都を含む関東地区においては、平成18年から継続的に「奈良市東京観光オフィス」による首都圏での教育旅行誘致活動を実施しており、平成27年の修学旅行に影響する平成25年度の活動において、奈良市のメインターゲット層である東京都区内公立中学校のうち174校に対して営業を行いました。都区内の全公立中学校380校のうち、146校（38.4%）が奈良市に宿泊しました。

教育旅行全体の動向として、文部科学省による教育指導要領の改訂があり、「キャリア教育の推進」が体験プログラムに反映される形になってきています。このような状況の中、奈良市においても、市内へ宿泊していただける学校の維持・増加に寄与する営業ツールとして、「キャリア教育プログラムの造成」に向けた取組みを平成27年度から行っています。

具体的には、奈良市が有する世界遺産や伝統工芸など、他の地域にはない教育資源が数多くあることから、それらをキャリア教育視点で捉え、プログラム化するとともに、そのプログラムで生徒たちにどのような気付きを与えられるかが分かるティーチャーズガイドも併せて作成を進めています。

引き続き、1300年の歴史を有し、世界遺産など歴史文化遺産の宝庫である奈良市の魅力を最大限に活かす方策を考えるとともに、従来の首都圏への誘致活動も継続しつつ、今後、その他の地区への誘致活動の強化も検討していきたいと考えています。

3 奈良市内の観光消費額

観光庁が「観光入込客統計に関する共通基準」に基づいた都道府県等の入込客に関する調査結果をまとめて公表している「共通基準による観光入込客統計」の平成26年集計分から推計すると、平成26年の奈良県の1人あたり観光消費額は、宿泊客が25,966円、日帰り客が3,871円となります。

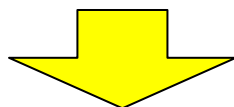
上記1人あたり観光消費額（単価）を奈良市の観光入込客数に乗じて、奈良市内の観光消費総額を推計すると、約935億円（宿泊客：約418億円／日帰り客：約517億円）となり、前年の約892億円（宿泊客：約405億円／日帰り客：約487億円）から43億円増となります。

	観光消費額単価 (奈良県 H26年値)	観光入込客数 (奈良市)	観光消費額 (奈良市)
宿泊客	25,966 円	1,611 千人	41,831,226 千円
日帰り客	3,871 円	13,365 千人	51,735,915 千円
合計			93,567,141 千円

(参考)外国人のみを抽出して奈良市の観光消費額を推計

	観光消費額単価 (奈良県 H26年値)	観光入込客数 (奈良市)	観光消費額 (奈良市)
外国人宿泊客	68,245 円	227 千人	15,491,615 千円
外国人日帰り客	9,613 円	748 千人	7,190,524 千円
合計			22,682,139 千円

※H27年観光消費額単価は集計中



観光消費額 約935億円 (対前年比 約43億円増)